

海外挑戦、再び活性化

企業の対話アプリ活用を支援するMicosworks（ミコワークス、大阪市）が第三者割当増資で約35億円を調達した。2024年内にも東南アジアなどへの事業展開を本格化する。新型コロナウイルスの行動制限が緩和され、海外で成長加速を狙うスタートアップの動きが再び活性化してきた。

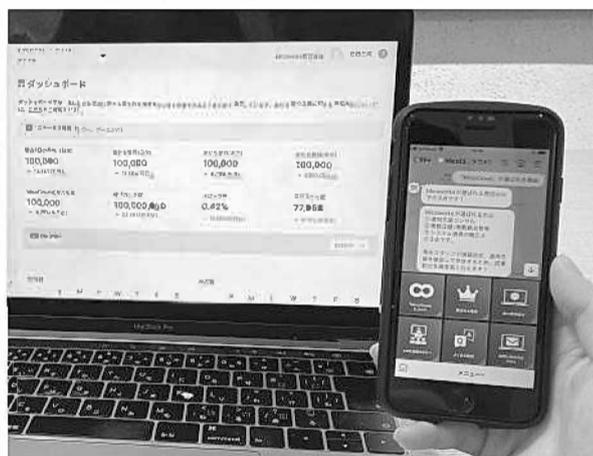
ミコワークス、東南アジア照準 大型資金調達 相次ぐ

た。ミコワークスの累計資金調達額は約63億円とアジア各地で顧客を獲得した。ミコワークスは対話アプリ「LINE」上で企業の公式アカウント運営をサポートするシステム「MicoCloud（ミコクラウド）」が主力だ。3年後には国内外のエンジニア数計100人と

の自動回答機能や予約の受け付けといった機能を備える。東京海上日動火災保険やJR東海の旅行子会社などに導入されている。LINEが使われている台湾やタイの企業にミコクラウドを売り込む。海外で人気の他の対話アプリにも対応できるように

た。システムを改良し、アジア各地で顧客を獲得したい考えだ。すでに台湾とフィリピンに拠点を立ち上げた。英語でのシステム開発を進めている。調達資金は人材採用にも充て、2023年後には国内外のエンジニア数を計100人と

が盛り上がってきている。ミコワークスの山田修社長は「海外渡航が自由になり、海外で事業を確立しやすい環境になった。30年にはアジアでナンバーワンの会社になりたい」と意気込む。



ミコクラウドは問い合わせ対応など幅広い機能を備える

狙いを定め、複数のクラウドソフトを一括管理するシステムの投入を準備する。

部品の受発注仲介サービスを手掛けるキャディ（東京・台東）も7月、グロービス・キャピタル・パートナーズなどから118億円の調達を発表した。電気自動車（EV）や半導体の自国生産を政府が支援する米国で受注拡大を目指す。

大型資金調達も相次ぐ。ラクスル創業者の松本恭攝氏が創業したジョーシス（東京・品川）は9月、VCのグローバルブレインなどから13億円の調達を発表した。米国やアジアなどに

（仲井成志）